

JSDA

一般社団法人 日本シャッター・ドア協会

59

Jul.2020

- ② 特集 通常総会開催される
- ⑥ 特別寄稿 株式会社フクダ・アンド・パートナーズ
専務取締役 設計建設支援本部 本部長
山田 裕一 氏
「物流施設の安全性と防火シャッター」
- ⑧ トピックス 浸水防止用設備建具型の JIS 制定
- ⑫ スポットライト シャッターの使用状況調査 2019
- ⑭ 統計データ 出荷推移 (シャッター、ドア)

特集

通常総会開催される

さる5月26日(火)午後、日本シャッター・ドア協会において2020年度通常総会が開催された。今年は、新型コロナウイルス感染症の影響で規模を縮小し行われ、記者会見及び懇親会は中止となった。

2020年度 通常総会

5月26日(火)15時より、日本シャッター・ドア協会(東京都千代田区)において2020年度通常総会が開催された。今年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、長野会長・潮崎副会長・後藤常任理事・亀村専務理事のみが出席し、規模を縮小して行われた。(その他一種会員は委任状)

通常総会では長野会長が議長を務め、報告事項として2019年度事業報告が了承されたあと、決議事項として第1号議案「2019年度決算(案)承認の件」、第2号議案「役員(理事・監事)選任(案)の件」、第3号議案「新会費(案)承認の件」が諮られ、それぞれ原案通り承認された。今年度は、青木徹氏(一般財団法人住宅生産振興財団専務理事)及び山本慶一氏(株式会社鈴木シャッター代表取締役社長)の2名が新たに理事に選任された。次に、その他報告事項に「2020年度事業計画」、「2020年度収支予算」、「防火設備の検査報告制度」、「技能検定制度」、「2020年度協会表彰」について報告された。

2020年度 協会表彰

本年度は、優秀工事従事者協会表彰として10名、協会委員表彰として3名が表彰された。

■優秀工事従事者協会表彰

赤田 やよい氏 (推薦:文化シャッター)
細川 泰洋氏 (推薦:文化シャッター)
波多野修二氏 (推薦:文化シャッター)

中村 太一氏 (推薦:東洋シャッター)
猪原 幸裕氏 (推薦:鈴木シャッター)
沖杉 淳氏 (推薦:日本フネン)

東 良和氏(推薦:三和シャッター工業)
織田 圭一氏(推薦:三和シャッター工業)
阿井 幸夫氏(推薦:三和シャッター工業)
石田 勇志氏(推薦:三和シャッター工業)



赤田 やよい氏



細川 泰洋氏



波多野 修二氏



中村 太一氏



猪原 幸裕氏



沖杉 淳氏



東 良和氏



織田 圭一氏



阿井 幸夫氏



石田 勇志氏

■協会委員表彰



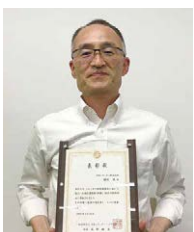
文化シャッター
岡本 光永氏

推薦

工事委員会

その他所属委員会

- ・技能検定制度化 PT
- ・保守点検専門技術者テキスト編集 PT
- ・防火設備講習委員会
- ・講習委員会



文化シャッター
植竹 徹氏

推薦

シャッター技術委員会

その他所属委員会

- ・基準委員会
- ・管理調整委員会
- ・オーバーヘッドドア技術委員会
- ・耐火クロススクリーン専門委員会
- ・高速シートシャッター専門委員会



三和シャッター工業
上野 耕平氏

推薦

- ・防火シャッター・ドア保守点検専門技術者テキスト編集 PT

- ・防火設備検査員テキスト改定 WG

その他所属委員会

- ・防火設備講習委員会
- ・技能検定制度化 PT
- ・技能検定制度化 WG

2020年度 事業計画

はじめに

シャッター及びドアは、建築物において防犯等の管理機能や防火・遮煙等の防災機能といった重要な役割を担っている。

当協会は1964年に社団法人日本シャッター工業会として設立され、2000年には社団法人日本シャッター・ドア協会として新たにスタートし、今日までシャッター及びドアの性能向上や普及を通じて、より安全で安心できる社会の形成に貢献するよう努めてきた。

当協会会員が供給してきたシャッター及びドアのストックは既に膨大なものとなっており、新たな供給への対応と併せて、ストック対策が極めて重要となっている。

シャッター及びドアは、的確な保守・点検により期待された機能が確保されるものであり、保守・点検が必須である。このため、当協会では、2006年度に点検法制化推進本部を設け、以来、シャッター及びドアの点検制度について検討・提案を行ってきた。

2016年6月より改正建築基準法が施行され、防火設備に関する検査制度が開始された。当協会としては、この制度が的確かつ円滑に実施されるよう、会員及び関係者の協力を求めている。

防火設備の検査資格者の講習制度の一環として位置づけられた実技講習については当協会が（一財）日本建築防災協会より委託を受けて、昨年度は、2020年1月より実施した。本年度も引き続き実施していく。

シャッターの施工者の技能の向上を図る観点から、シャッターの施工者を対象に、国家資格である技能検定制度の導入に向けた取り組みを進め、シャッター・ドア業界の地位の向上を図る。また、協会が技能検定に先駆けて行うシャッター施工技能者資格認定試験を実施する。

消費者安全調査委員会より意見のあった重量シャッターJIS、軽量シャッターJISへの安全装置等の規定化を内容とする改正のための活動、及び改正後の普及活動を実施する。

当協会の会員を取り巻く状況については、東京オリンピック・パラリンピックの開催前の建築業界の活況に伴い、業績はおおむね堅調に推移していくとも考えられるが、COVID-19（新型コロナウイルス）の流行などを背景に景気に不透明感があり、業績も流動的になると考えられる。

このような社会経済情勢の下、本年度も、会員相互の協力により設立の目的に掲げる各種の事業を推進するとともに、法令遵守に対する意識を高め、より一層社会に貢献したいと考えている。

第一章 定常的事業

1 調査研究普及事業

シャッター、ドア及び防火設備に関する調査研究、技術基準等の策定、製品安全への取り組み、維持管理における安全対策の推進等を行う。

(1) 調査研究

- ・窓シャッターの耐飛来物衝撃性能の評価方法の検討を行う。

(2) 技術基準等の策定

- ・技術基準の策定、改定を進める。

技術基準の策定

軽量シャッター技術基準、グリルシャッター技術基準、浸水防止用設備及び鋼製建具・鋼製軽量建具技術基準の策定

技術基準の改定

オーバーヘッドドア技術基準及び高速シートシャッター技術基準の改定

- ・技術基準の構成要素である設計基準、施工基準及び点検基準の策定、改定を進める。
- ・技術基準等の策定に関する調整を行う。
各技術委員会の情報の共有化を図るとともに、技術基準等の標準化について検討する。
- ・シャッター、ドア、耐火クロススクリーンの木造建築物（耐火構造及び準耐火構造）への納まりについて検討する。

(3) 製品安全への取り組み

- ・事故情報の分析及びそれを踏まえた基準作りを行う。
- ・安全対策検討委員会を開催し、シャッター・ドアの安全対策について検討を行う。
- ・製品安全に関するガイドラインの策定等を行う。
高速シートシャッターの安全に関するガイドラインの2020年度中の策定
- ・耐火クロススクリーンの設置に関する自主管理を行う。
- ・シャッター施工に関する技能検定制度の導入に取り組む。

(4) 維持管理における安全対策の推進

- ・製品安全普及事業の一環として、建物管理者やユーザー向けのチラシ・ポスターを作成し、定期的な保守点検の必要性を訴え、点検が幅広く推進されるよう活動する。
- ・協会のホームページを活用して安全普及を推進する。
- ・防火シャッター・ドア保守点検専門技術者資格認定制度を推進する。
- ・危害防止機構や障害物感知装置が未設置のシャッターの解消を図るための取り組みを進める。

(5) 資料収集・普及事業

- ・シャッター・ドアの市場及び用途に関する調査を行う。
- ・労働災害発生状況の調査を行う。
- ・防犯製品に関する情報提供を行う。
- ・会報・ホームページによる情報提供に努める。
- ・優秀工事従業者表彰を実施するとともに、優秀施工者の国土交通大臣顕彰及び土地・建設産業局長顕彰に関し推薦を行う。
- ・元下請取引実態調査を実施する。
- ・ドア事業の推進に関し、新たな展開を図るための検討を進める。
- ・浸水防止用設備の普及促進に係る取り組みを進める。
- ・スチールドアに関する研修会を行う。

2 評定登録講習事業

所定の性能を有するシャッター及びドアに関する認定、登録、並びにシャッター、ドア及び防火設備の施工及び点検に関する人材育成を行う。

(1) 所定の性能を有するシャッター及びドアの認定、登録等

- ・遮炎遮煙性能に関し国の認定を受けた構造方法（CAS）の使用承認を行う。
- ・連動機構・装置等の自主評定を（一社）日本火災報知機工業会及び日本防排煙工業会と共同で行う。
- ・防犯性能の高い建物部品の自主評定を警察庁等で組織する官民合同会議に参画して行う。

(2) シャッター及びドアの保守点検に関する人材育成

- ・シャッター及びドアの保守点検を行う技術者育成のための講習会を開催する。
- ・防火シャッター・ドア保守点検専門技術者資格認定委員会を開催し、保守点検を行う技術者の認定・登録を行う。
- ・保守点検専門技術者の資格更新を行う。

(3) 防火設備検査員講習における実技講習の実施

- ・（一財）日本建築防災協会より委託を受け、防火設備検査員講習における実技講習を実施する。

防火設備の検査資格者については、講習制度の一環である実技講習を当協会が（一財）日本建築防災協会から委託を受け、昨年度は、2020年1月から2月まで実施した。当協会では本年度も引き続き実技講習を実施する。

電動シャッター動作時の事故防止に係る安全普及活動リーフレットや会員に配布する協会作成の点検の日（6月1日）、安全の日（9月1日）のチラシ・ポスターを活用して、会員が建物管理者やユーザー向けに定期的な保守点検の必要性を訴え、点検が幅広く推進されるよう活動するとともに、安全の確保を訴え、ユーザー等の安全性の向上を図られるよう活動する。また、適切な維持管理の推進とあわせて、危害防止機構や障害物感知装置未設置のシャッターの解消に積極的に取り組むものとする。これにより、協会の知名度、ブランド力の向上を図る。

2 技能検定制度導入への取り組み

シャッターの施工者の技能の向上を図る観点から、シャッターの施工者を対象に、国家資格である技能検定制度の導入に向けた取り組みを進め、シャッター・ドア業界の地位の向上を図る。

このため、技能検定制度における職種の追加、及び当協会が指定試験機関となる上で必要となる事項等について検討し、その結果を踏まえて関係機関との調整を行う。また、協会が技能検定に先駆けて行うシャッター施工技能者資格認定試験を実施する。

3 シャッター JIS 改正

消費者安全調査委員会より意見のあった重量シャッター JIS、軽量シャッター JIS への安全装置等の規定化を内容とする改正のための活動、及び改正後の普及活動を実施する。

4 会員サービスの取り組み

協会会報の会員企業紹介コーナーの中で協会に期待することを掲載する。これらの要望に対し、協会としての会員サービスの取り組みを検討していくこととする。

また、賛助会員の技術・製品に関する説明会を実施する。

第一章及び第二章の事業を推進するため、協会活動の基盤である会員の拡充を図るとともに、必要に応じ学識者、関連行政担当者、関係団体役職員の参加を求めて会員の協力による委員会を組織する。

また、各事業の進行管理及び日常の活動のために必要な事務局の体制を整備するとともに、その効率的な運用に努めるものとする。

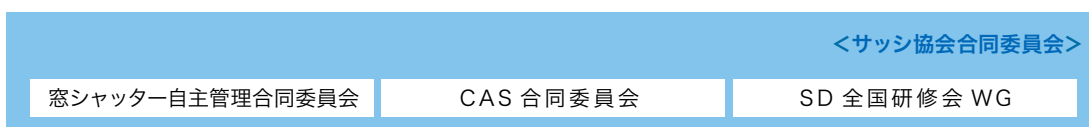
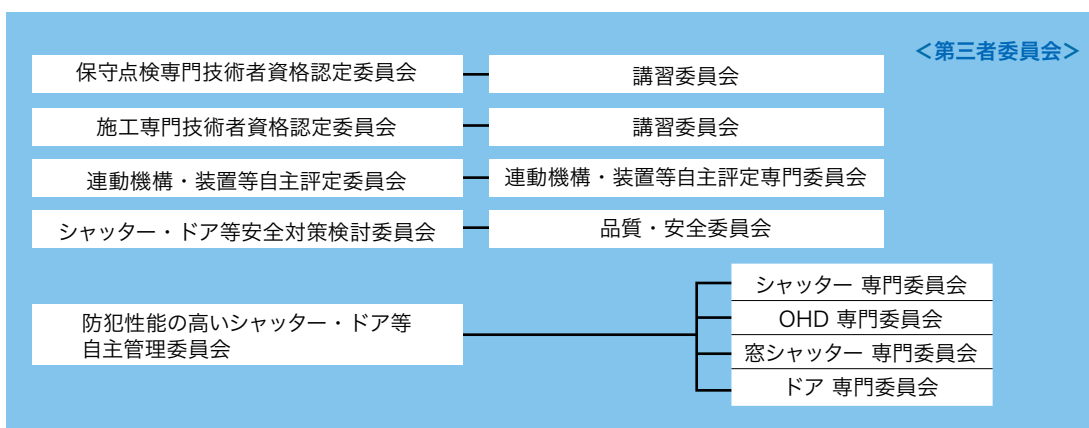
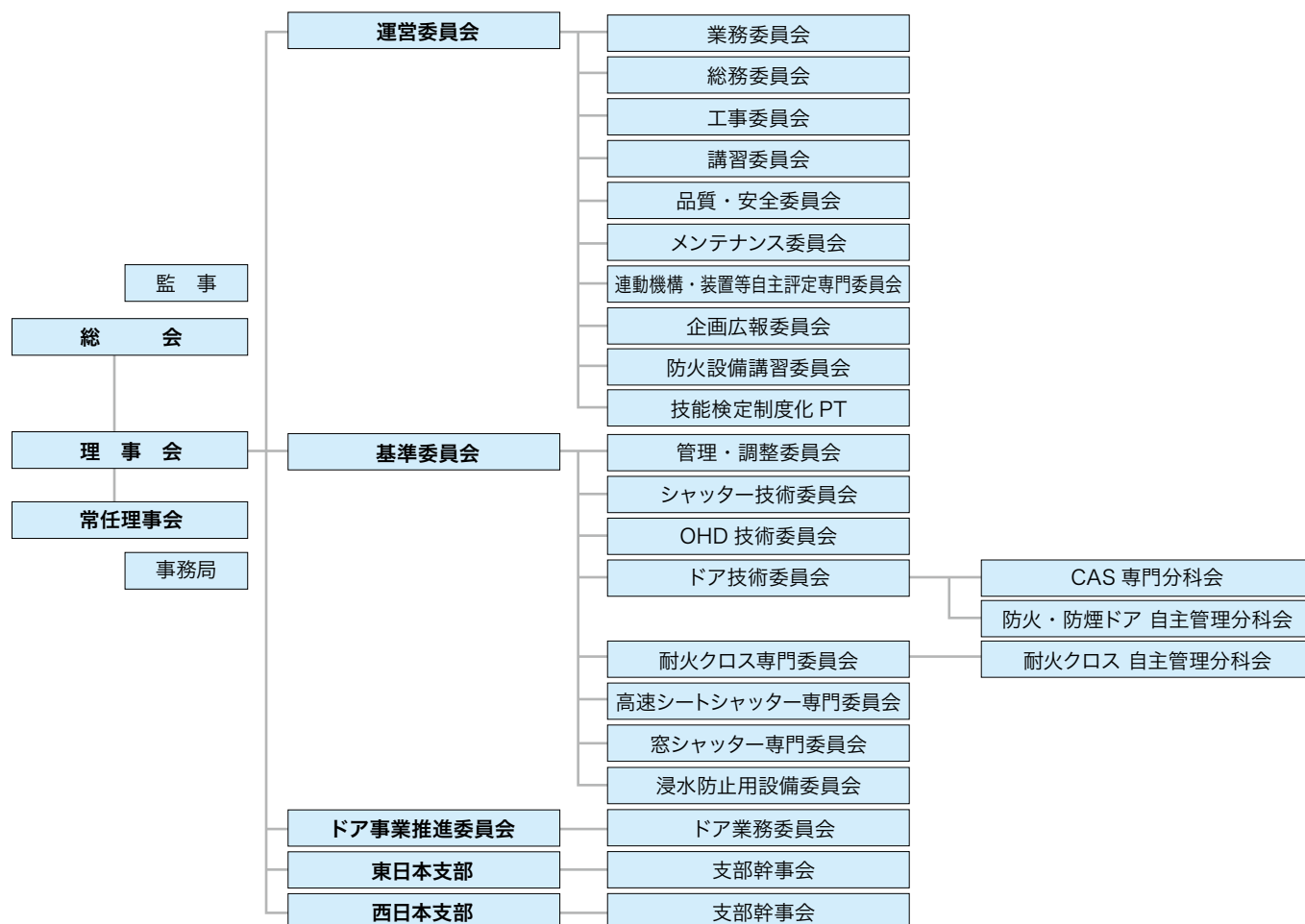
第二章 特別事業

1 シャッター及びドアのストック対策の推進

2016年6月の改正建築基準法の施行により義務化された防火設備検査制度が的確かつ円滑に実施されるよう引き続き会員及び関係者の協力を求めていく。

検査の実施に関しては、機動的に対応できる体制を協会内に整える。

2020年度 運営組織図



物流施設の安全性と 防火シャッター

株式会社フクダ・アンド・パートナーズ
専務取締役
設計建設支援本部 本部長
山田 裕一 氏



物流は生産者から消費者にモノを届ける仕組みで、東日本大震災をきっかけに、サプライチェーンや地域経済に与える影響が大きく、私たちの生活や経済の成長にとってなくてはならない重要な社会インフラであることを再認識している。

この物流を支えているのが物流施設であり、インターネット通販をはじめとして施設内の運用形態は多種多様であるが、建築基準法で定められた防火区画に防火シャッターを活用することで、火災の延焼を防ぐ機能を保ちながら運用効率の高い大空間の倉庫を実現可能としている。

最近の物流施設では、庫内で働く人の労働者不足とマテハン技術の進化により急速にロボットや機械による自動化が進み、モノを自動搬送できるコンベアが複雑に配置されるケースが多く、搬送コンベアが防火区画を貫通する際に防火シャッターと搬送コンベアを電気制御で連動させて防

火シャッターが降下し防火区画が形成される仕組みとなっており、防火シャッターは倉庫内の安全確保のために重要な役割を果たしている。

2017年2月に埼玉県三芳町で発生した倉庫火災はまだ記憶に新しく、一部搬送コンベアと防火シャッターが連動しない事象があったが、その教訓をいかして現在は防火シャッターが確実に作動させるための設備強化が施されている。モノを搬送するコンベア、防火設備としての防火シャッター、異なる機能を連動させて火災時に確実に区画を形成させるためには、事業主、設計者、施工者、シャッター及びマテハン技術者、プロジェクトに関わる全ての人が、コンベア動線やモノが運ばれる仕組みを理解し安全に対する高い意識をもって施設を具現化していくことが求められる。そのひとつひとつの努力の積み重ねによって、より安全な物流施設の実現が可能となる。

NEWS

「建築物における電気設備の浸水対策ガイドライン」がまとめられました

2019年の令和元年東日本台風（第19号）による大雨に伴う内水氾濫により、高層マンションの地下部分に設置されていた高圧受変電設備が冠水し、停電したことによりエレベーター、給水設備等のライフラインが一定期間使用不能となる被害が発生しました。

こうした建築物の浸水被害の発生を踏まえ、国土交通省は経済産業省の連携のもと、学識経験者、関連業界団体等からなる「建築物における電気設備の浸水対策のあり方に関する検討会」を2019年11月に設置し、2020年6月19日に「建築物における電気設備の浸水対策ガイドライン」としてとりまとめました。当協会も検討会に参画しています。

ガイドラインでは、高圧受変電設備等の設置が必要な建物の建築時・改修時を適用範囲とし、止水板などによる建築物内への浸水を防止する対策や建物内に浸水があった場合でも電気設備設置室等への浸水する対策として防水扉の設置等による防水区画をつくること記載されています。

ガイドラインは国土交通省 ホームページにて公開しています。

https://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/build/jutakukentiku_house_tk_000132.html

※右記 QR コードからも読み取りいただけます



新型コロナウイルス感染症で 影響を受ける事業者への支援について

新型コロナウイルス感染症の影響により、売上（収入）が減少した事業者に対する、事業継続のための主な支援（給付・貸付）をまとめました。

給付金（返済不要）

持続化給付金（中小企業庁持続化給付金事務局）

新型コロナウイルス感染症の影響により、ひと月の売上高が前年同月比で50%以上減少している事業者を対象に、現金100万円まで（法人は200万円まで）を給付する制度です。

2019年以前から事業収入を得ており、今後も事業を継続する意思がある事業者が対象です。

お問い合わせ先

持続化給付金事業コールセンター
電話番号：0120-115-570
受付時間：8:30～19:00
※7月から12月（土曜日を除く）

経済産業省 HP

URL: <https://www.meti.go.jp/covid-19/jizokuka-kyufukin.html>

※右記 QR コードからも読み取りいただけます



貸付金（要返済）

新型コロナウイルス感染症特別貸付 （日本政策金融公庫国民生活事業）

ひと月の売上高が前年、または前々年同期比5%以上減少している事業者を対象に、6,000万円まで貸付する制度です。「特別利子補給制度」を併用することで、3,000万円以下の部分が、3年間は実質的に無利子で利用可能です。

- ・資金の使いみち：
運転資金、設備資金
- ・担保：無担保
- ・貸付期間：15年以内
（運転資金）
- ・うち据置期間：5年以内

お問い合わせ先

日本公庫事業資金相談ダイヤル
平日：0120-154-505
土日・祝日：0120-112476

日本政策金融公庫 HP

URL: https://www.jfc.go.jp/n/finance/search/covid_19_m.html

※右記 QR コードからも読み取りいただけます



助成金（返済不要）

雇用調整助成金特例処置（厚生労働省）

業績が悪化したなどの理由によって、事業主が休業手当を支給して従業員を休ませた場合に、その費用の一部を政府が助成する制度。

お問い合わせ先

都道府県労働局・ハローワーク
もしくは学校等休業助成金・支援金、
雇用調整助成金コールセンター
電話番号：0120-60-3999
受付時間：9:00～21:00
（土日・祝日含む）

経済産業省 HP

URL: https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/koyou/kyufukin/pageL07.html

※右記 QR コードからも読み取りいただけます



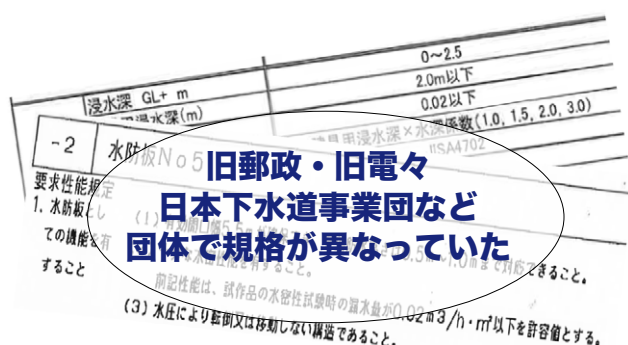
浸水防止用設備建具型の JIS 制定

- 地下空間の浸水災害を軽減する設備の普及を目指して -

近年の気候変動等に伴って、大雨やゲリラ豪雨に起因する浸水災害が増加傾向にあり、建築物の開口部から建物内又は、地下空間への雨水流入を防ぐ浸水防止用設備の重要性が高まっています。雨水が建物内や地下空間へ侵入すると、避難経路が制限されたり、電気設備の停止でライフラインも機能停止に繋がります。

身近な浸水対策では土のうが使われますが、調達や設置に手間が掛かり増水する浸水に対応できません。また、水防法では地下街などの所有者・管理者に対し避難経路確保を含めた浸水防止計画の作成を義務付けており、設置場所に適した浸水防止用設備が求められています。多種の浸水防止用設備があり浸水防止性能も異なるため、浸水防止性能比較ができる基準作りを JSDA では進めて参りました。JIS 規格原案作成では、関係省庁と調整の結果、建具型（シャッター及びドア）の浸水防止性能基準は、建具型以外の製品においても浸水防止性能基準の比較が可能であることから建具型の JIS 制定が行われました。

JSDA 浸水防止用設備委員会の活動について



**ユーザーが使いやすい統一基準を作成するべく、
浸水防止用設備委員会の活動がはじまりました**

2013年12月 第1回浸水防止用設備プロジェクトを開催

浸水防止性能の統一基準の必要性から、ユーザー視点のガイドライン作成に着手
2014年4月「浸水防止用設備に係わる固定資産税の特別処置」要請、施行される。

2014年5月 国土交通省・国土技術センタ関係省庁への働きかけ

関係省庁にガイドラインの啓蒙の加え、JIS化に向け関連企業と合同会議

2014年9月 国交省水防室「浸水想定区域ガイドライン」に協会PJ参加

国交省 HP の浸水防止用設備設置に対するガイドライン作成に参加（資料提供他）

2015年1月 第1回浸水防止用設備委員会を開催

浸水防止用設備メーカー11社による委員会発足、PJガイドライン⇒JIS規格化に向け
技術基準に着手、試験機関と試験方法・評価方法など調整を行ってきた。

2017年1月 第25回浸水防止用設備委員会でJIS規格化へ活動開始

技術基準が完了、JIS規格化へ向け関係省庁へ働きかけ、日本規格協会へ申請する。

浸水防止用設備 JIS 申請～規格化まで

- 2017.01 国土交通省建築指導課へ訪問
- 2017.02 経済産業省と面談し、JIS 規格管轄部署決定を依頼する
- 2017.06 経済産業省管轄で建具型の JIS 申請に決まる
- 2017.11 JIS 原案作成申請が受理される
- 2018.01 **JIS 原案作成分科会開催、浸水防止用設備委員会で素案作成**
- 2018.02 JIS 原案作成本委員会の開催
- 2018.10 JIS 原案作成本委員会最終審議にて承認
- 2018.11 JIS 原案を日本規格協会校正後、経済産業省へ JIS 申請
- 2019.09 経済産業省専門委員会の審査にて承認
- 2019.11.20 **「JISA4716 浸水防止用設備建具型構成部材」 制定**



制定まで 2 年

JIS 規格の建具型について

建具型とは、シャッターに止水板が付加されるもの及び、扉と四方枠で止水するドアセットともに浸水防止性能を有している設備としました。

シャッター型



連続構造止水板



単一構造止水板

ドア型



スイング式



スライディング式

建具型では、常用で使用されるタイプでは、JISA4705 重量シャッター及び、JISA4702 ドアセットの開閉基準を満足する事とします。また、非常用で使用されるタイプに区分しました。

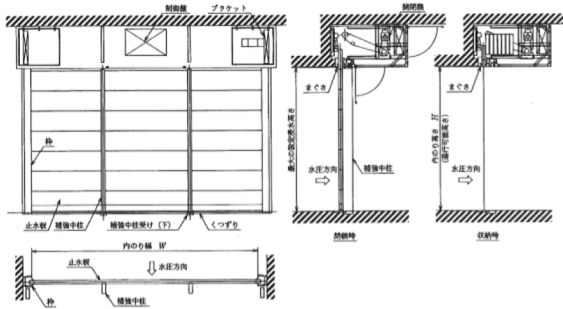
JIS 建具型以外の取扱い

脱着型及び、開口部設置型に関して JIS 原案作成委員会でも意見がありましたが、一般的に使用される止水板や起伏式なども、建具型の各種浸水性能試験が可能で性能評価できることから、次回改正時に脱着型・開口部設置型を検討する事としました。

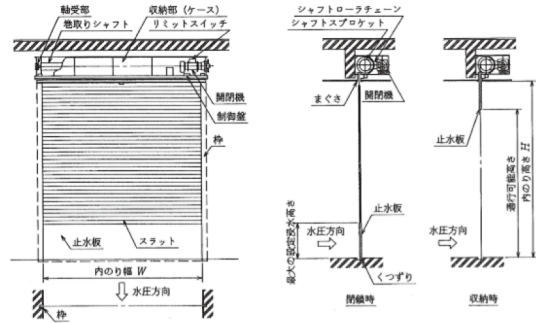


JIS 規格の内容について

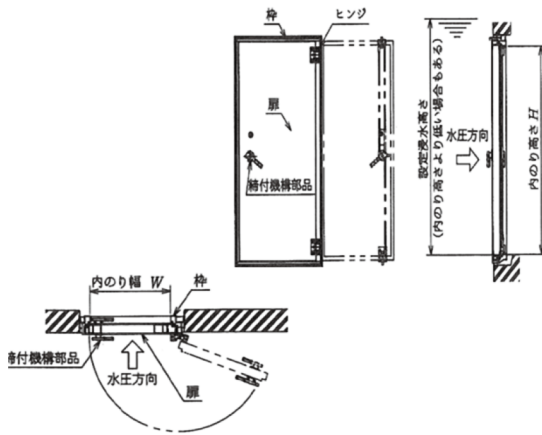
浸水防止用設備建具型の例



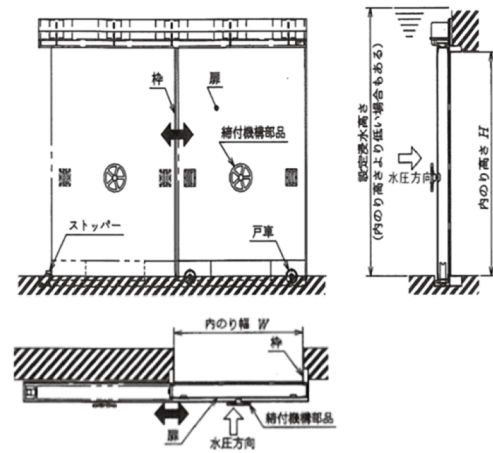
シャッター型(連続構造止水板)



シャッター型(単一構造止水板)



ドア型(スイング式)



ドア型(スライディング式)

浸水防止用設備の主な性能

1. 浸水防止性能

設定浸水高さの静水圧において、**漏水量が $0.2 \text{ ml}/(\text{h} \cdot \text{m}^2)$ 以下**
製品ごとの設定浸水高さに基づく漏水量によって区分

2. 耐水圧性能

設定浸水高さの静水圧試験で、水圧による加圧状態及び水圧開放状態で
使用上有害な損傷及び変形がなく、開放状態での開閉に支障がない

3. 操作の容易性能

締付機能部品の**操作力 200N 以下**で、設置時間を **5 分以内**
シャッター型手動式では、**10 分以内**

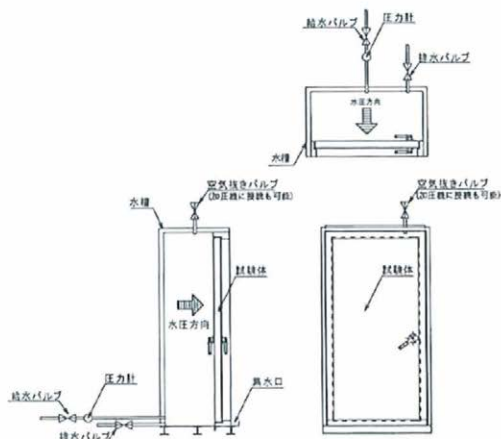
4. 締付繰返し性能

締付機能部品の繰返し性能は、**200 回**の締付繰返し性能試験を行った
とき、使用上有害な損傷及び変形がないこと

5. 開閉繰返し性能

常用の場合、シャッター型・ドア型においては、**JISA4705.JISA4702 規定**
による。非常用の場合、大型仕様の場合は**受渡当事者間の協議**にて決定

浸水防止用設備の性能試験例



ドア型試験装置の例



ドア型試験装置の例



圧力計

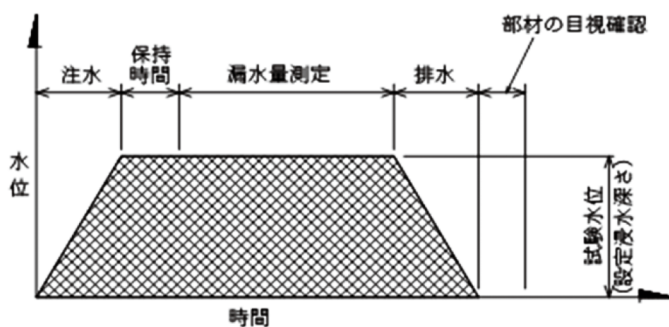


給・排水



集水口

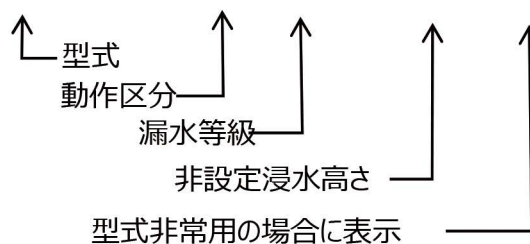
試験の手順は、次の試験手順及び漏水量測定的时间と水位との関係で示す。
試験水位の水圧の安定を確認後、1分以上保持する。また、設定浸水高さにより加圧する。



漏水量による等級と表記例

等級	漏水量 $m^3/(h \cdot m)$
Ws-1	0.05を超え0.2以下
Ws-2	0.02を超え0.05以下
Ws-3	0.01を超え0.02以下
Ws-4	0.004を超え0.01以下
Ws-5	0.001を超え0.004以下
Ws-6	0.001以下

ドア型スイング式－電動－Ws-3－3.0 m－非常用



さいごに

浸水防止用設備の導入にあたり浸水防止性能の等級を参考に比較検討いただき、ユーザーが求める浸水防止計画に適した浸水防止用設備の導入が容易になります。

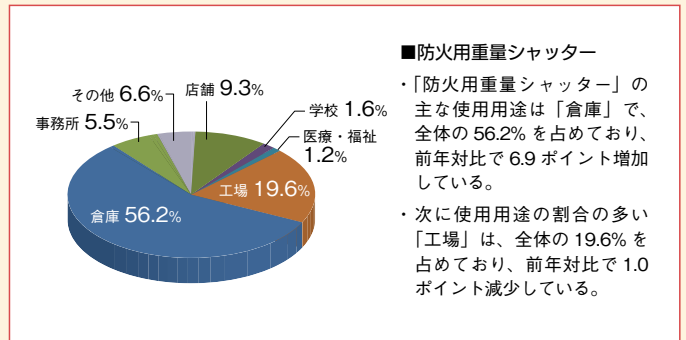
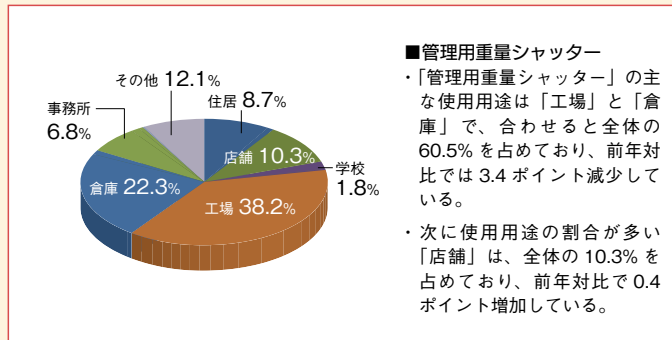
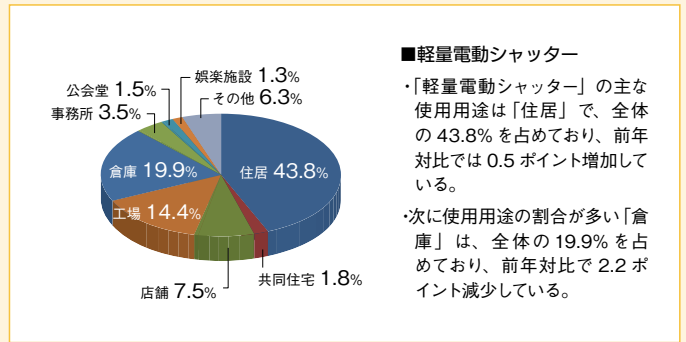
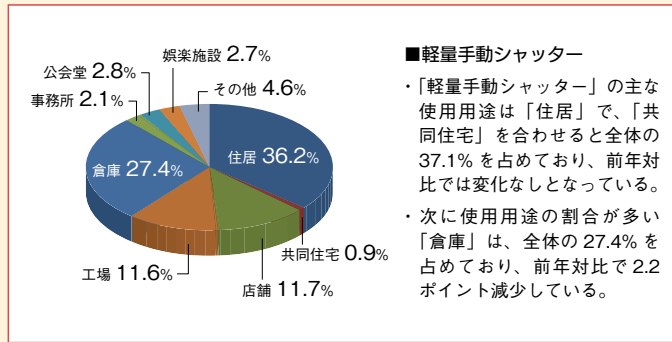
予期せぬ浸水被害は、事前の対策なしでは対応できません。浸水防止用設備の JIS 制定を契機に、同設備の普及が幅広く進み、災害を防止・軽減することを期待します。

シャッターの使用状況調査 2019

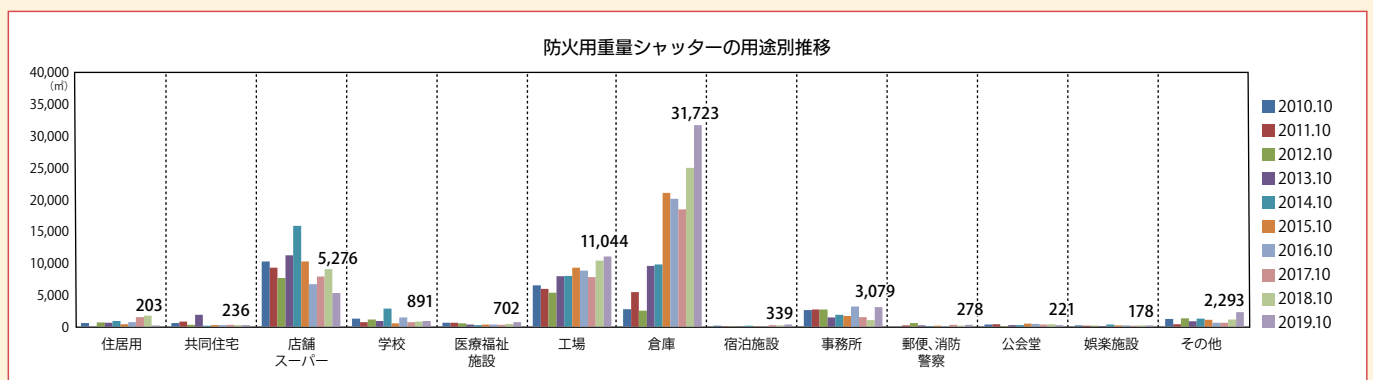
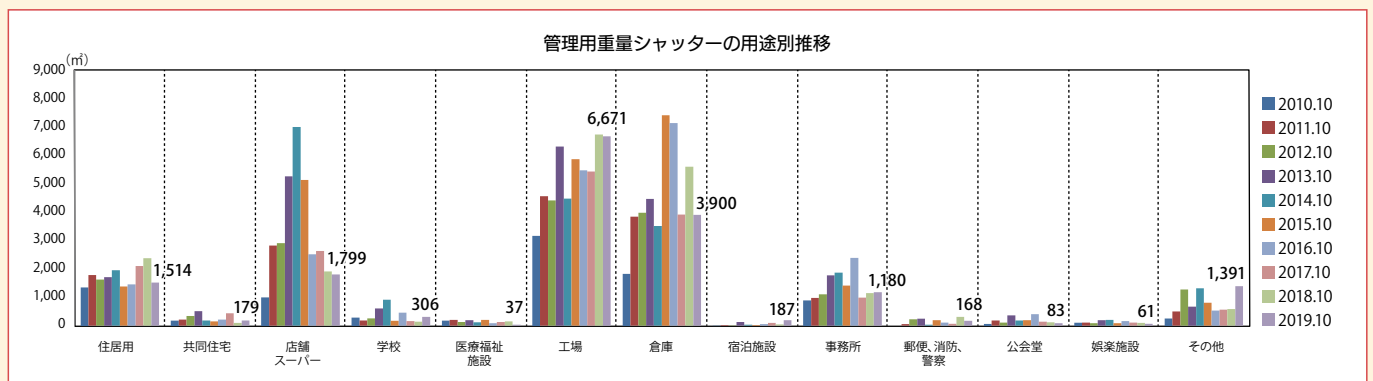
2010年より毎年業務委員会で調査しているシャッターの使用状況調査について、2019年分の一部を抜粋して紹介します。この調査は、年間通じて平均的なデータを収集できる毎年10月の1ヶ月間の売上物件データをもとに、各種シャッターの建物用途別都道府県別の使用状況と年推移等をデータ化しています。

なお、調査概要については13ページ下を参照ください。

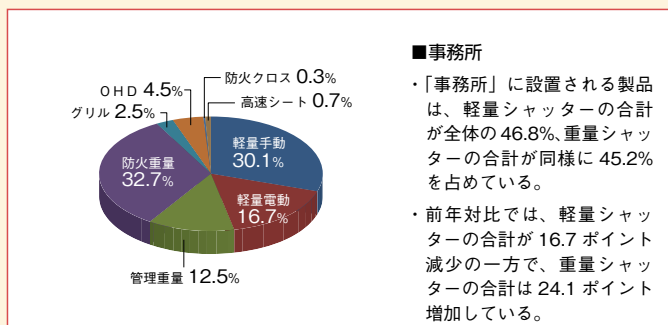
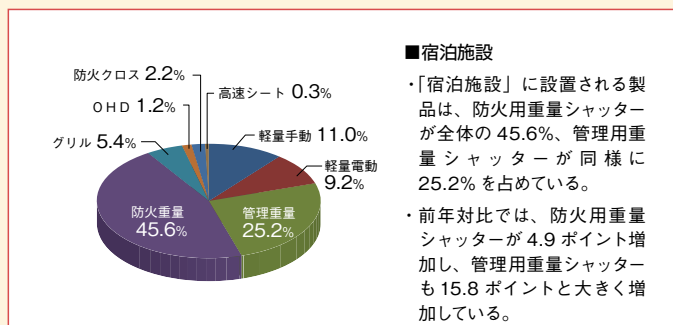
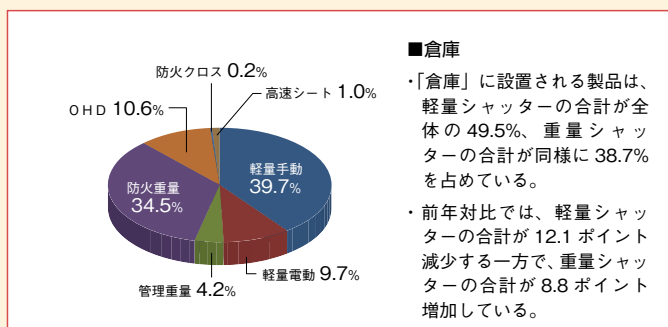
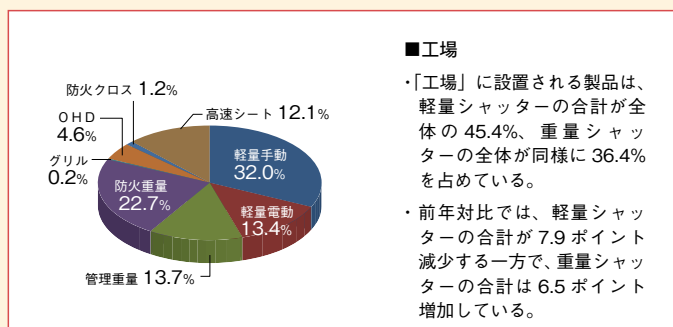
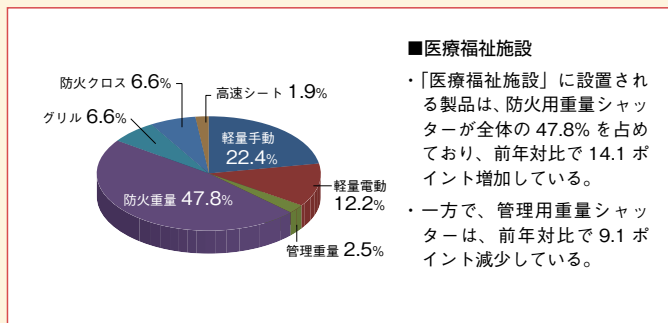
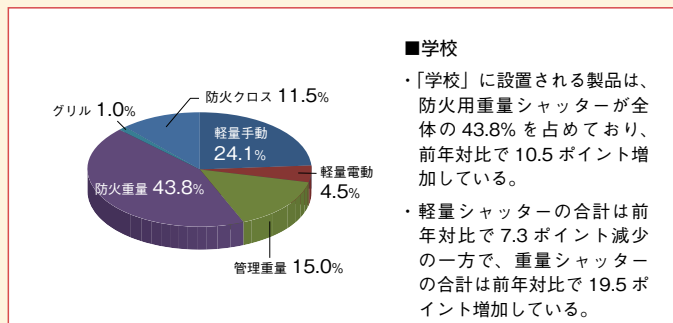
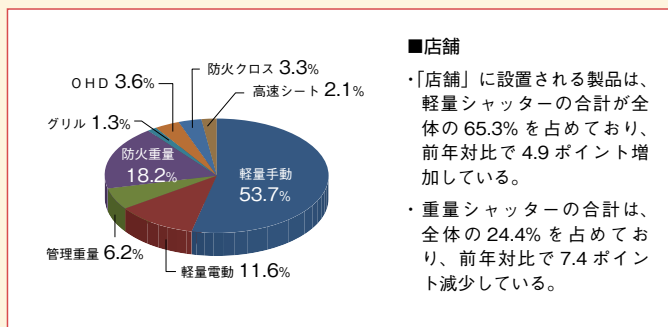
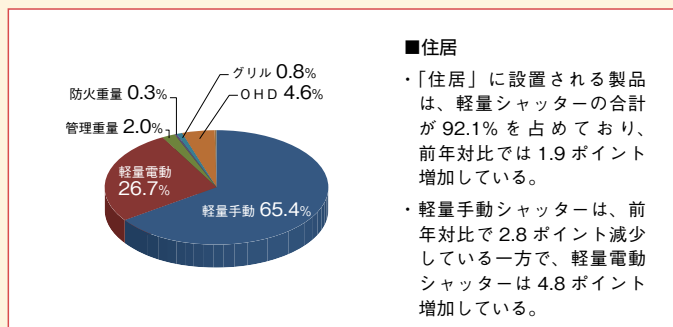
◆製品別用途別使用状況



◆管理用 & 防火用重量シャッターの用途別推移



◆主な用途別使用製品状況



調査概要

1. シャッターの種類：

軽量シャッター、軽量電動シャッター、管理用重量シャッター、防火用重量シャッター（特定防火設備）、グリルシャッター（軽量、重量とも）、オーバーヘッドドア、耐火クロススクリーン、高速シートシャッター

2. 集計単位：売上数量（㎡）

3. 建物用途区分：

- ①住居用、②共同住宅、③店舗・スーパー・百貨店、④学校、⑤医療・福祉施設、⑥工場、⑦倉庫、⑧宿泊施設（下宿、寄宿舎含む）、⑨事務所、⑩郵便局、消防署、警察署、駅舎、空港、⑪公会堂・集会所・博物館・美術館・研究所・寺院・教会、⑫娯楽施設（体育館、浴場、劇場、球場、映画館含む）、⑬その他

4. 調査地区：47都道府県

5. 調査期間：2019年10月（1ヶ月間）の売上物件

6. 調査協力企業：当協会会員（12社）

新会員について

今年度は、第二種会員として新たに2社、準会員として2社、賛助会員として2社の入会があり、5月末時点での会員数は176社となりました。

※今号は、定例企画「新会員企業紹介コーナー」及び「会員企業紹介コーナー」をお休みしました。

統計データ

■過去1年間出荷推移 <シャッター> (㎡、前年比・電動化率%)

	2019年4月	2019年5月	2019年6月	2019年7月	2019年8月	2019年9月	2019年10月	2019年11月	2019年12月	2020年1月	2020年2月	2020年3月
重量シャッター	101,239	94,073	103,364	112,349	88,295	88,871	101,065	101,864	96,292	89,874	85,078	90,933
前年比	25.9%	13.5%	24.2%	23.9%	11.1%	-0.7%	-11.5%	-16.6%	-12.1%	-5.8%	-16.7%	-9.2%
軽量シャッター	183,503	174,707	166,448	193,068	152,874	198,715	219,674	206,167	171,581	144,721	145,301	167,982
前年比	0.8%	-2.6%	-8.8%	3.0%	-8.2%	-4.4%	-25.3%	-26.1%	-15.3%	-7.1%	-11.5%	-2.3%
電動化率	28.1%	28.8%	30.1%	29.6%	29.1%	28.0%	25.4%	25.5%	28.3%	28.4%	28.7%	28.2%
グリルシャッター	2,609	2,783	2,672	2,873	2,301	2,262	3,258	3,145	2,712	1,994	2,460	2,649
前年比	13.2%	27.7%	-3.4%	-4.9%	-2.2%	-15.8%	-0.7%	-12.8%	-23.1%	-26.0%	-17.4%	-5.5%
オーバーヘッドドア	19,089	21,532	22,263	26,673	23,615	24,262	27,787	25,421	28,917	20,470	22,131	24,065
前年比	-1.3%	10.6%	7.6%	9.4%	9.2%	13.5%	-0.2%	-9.7%	6.9%	-3.7%	10.9%	2.8%
合計	306,440	293,095	294,747	334,963	267,085	314,110	351,784	336,597	299,502	257,059	254,970	285,629
前年比	7.8%	3.3%	1.9%	9.7%	-1.1%	-2.3%	-20.0%	-22.2%	-12.6%	-6.5%	-11.9%	-4.4%

■過去1年間出荷推移 <ドア> (枚、前年比%)

	2019年4月	2019年5月	2019年6月	2019年7月	2019年8月	2019年9月	2019年10月	2019年11月	2019年12月	2020年1月	2020年2月	2020年3月
鋼製重量ドア	32,387	36,213	44,972	42,528	41,505	47,279	43,156	48,761	48,369	42,965	49,902	69,647
前年比	18.1%	13.0%	31.2%	8.5%	8.4%	3.9%	13.7%	6.0%	19.3%	20.0%	7.2%	28.2%
鋼製軽量ドア	22,280	24,371	23,994	27,798	25,034	32,378	32,350	34,009	33,256	31,897	31,648	29,675
前年比	-1.0%	-1.4%	-14.8%	-6.8%	-11.5%	13.1%	-3.8%	-9.3%	-5.9%	-8.6%	-11.3%	-4.9%

■年度出荷推移 <シャッター> (㎡、前年比・電動化率%)

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
重量シャッター	1,365,508	839,568	839,415	875,978	993,232	1,145,215	1,090,735	1,186,252	1,073,117	1,087,339	1,149,779	1,153,297
前年比	-4.9%	-38.5%	0.0%	4.4%	13.4%	15.3%	-4.8%	-8.8%	-9.5%	1.3%	5.7%	0.3%
軽量シャッター	2,175,375	1,972,917	1,915,847	2,039,568	2,271,832	2,320,018	2,120,235	2,176,807	2,124,636	2,137,301	2,373,418	2,124,741
前年比	-12.6%	-9.3%	-2.9%	6.5%	11.4%	2.1%	-8.6%	2.7%	-2.4%	0.6%	11.1%	-10.5%
電動化率	25.4	24.5	26.2	24.5	24	23.5	26.5	27	27.7	28.2	26.6	28.0%
グリルシャッター	61,751	54,719	52,483	55,410	53,207	56,361	48,210	42,245	38,867	33,703	34,204	31,718
前年比	-22.0%	-11.4%	-4.1%	5.6%	-4.0%	5.9%	-14.5%	-12.4%	-8.0%	-13.3%	1.5%	-7.8%
オーバーヘッドドア	217,932	174,936	178,341	204,003	226,406	269,558	242,275	272,597	275,529	269,799	275,084	286,765
前年比	-9.4%	-19.7%	1.9%	14.4%	11.0%	-12.8%	-10.1%	12.5%	1.1%	-2.1%	2.0%	4.2%
合計	3,819,602	3,042,140	2,986,086	3,174,959	3,544,677	3,791,152	3,501,455	3,677,901	3,512,149	3,528,152	3,832,485	3,596,521
前年比	-10.0%	-20.4%	-1.8%	6.3%	11.6%	7.0%	-7.6%	5.0%	-4.5%	0.5%	8.6%	-6.2%

■年度出荷推移 <ドア> (枚、前年比%)

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
鋼製重量ドア	493,689	436,415	448,242	449,988	470,919	450,218	486,529	466,030	452,224	471,440	477,856	547,684
前年比	-22.4%	-11.6%	2.7%	0.4%	4.7%	-4.4%	8.1%	-4.2%	-3.0%	4.2%	1.4%	14.6%
鋼製軽量ドア	888,996	680,918	618,079	574,528	415,782	415,591	432,918	388,787	363,251	379,620	370,358	348,690
前年比	-11.4%	-23.4%	-9.2%	-7.0%	14.5%*	-0.1%	4.2%	-10.1%	-6.6%	4.5%	-2.4%	-5.9%

注)・「鋼製重量ドア」は鋼製建具を、「鋼製軽量ドア」は鋼製軽量建具を指します。 ・鋼製重量ドアは、ガスチャンバー、点検口を含みます。
 ・2008～2011年度の「鋼製軽量ドア」は日本鋼製軽量ドア協議会、2012年度以降は当協会による集計です。
 ※「鋼製軽量ドア」の2012年度の伸び率は当協会前年度実績に対する比率です。

高耐食性溶融亜鉛めっきカラー鋼板



JFEカラーエコガル®

JIS G 3318 特許 第5101249号 [溶融Zn-Al系合金めっき鋼板およびその製造方法]

高性能な「めっきカラー鋼板」を、すべての社会へ



美しい外観で加工性に優れ、塗膜の耐食性に優れた「JFEカラーエコガル®」をご用命ください。

JFE 鋼板 株式会社

<http://www.jfe-kouhan.co.jp/>

[本社] 〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目11番2号
〈東京営業部 第二営業室〉
TEL.03-3493-1519 FAX.03-3493-1937

[大阪支店] 〒530-0003 大阪市北区堂島1丁目6番20号
TEL.06-6342-0620 FAX.06-6342-0618



広告出稿のご案内

広告出稿をご希望の方は以下の規格の広告原稿を下記連絡先まで送付いただきますようお願い致します。

掲 載：JSDA 会報 次回発行号より

申込資格：日本シャッター・ドア協会 一種・二種会員、準会員、賛助会員

広告規格：・内 容 「企業広告」

・大きさ 縦 13cm × 横 18cm (A4 半ページ程度)

・形 式 JPEG、PDF、PNG (カラー・モノクロどちらでも可)

掲 載 料：50,000 円

【ご参考】JSDA 会報について

発行部数：2,500 部 フルカラー

配 布 先：官公庁、地方自治体 (特定行政庁)、指定確認検査機関、関係団体、設計事務所、建設会社、
大学、会員企業 176 社 (5 月末現在) 他

お問い合わせ先

一般社団法人日本シャッター・ドア協会

〒102-0073 東京都千代田区九段北 3 丁目 2-5 九段北 325 ビル 8F

TEL：03-3288-1281 FAX：03-3288-1282

E-mail: m-yamazaki@jstd-a.org

ハワイ出雲大社（アメリカ合衆国ハワイ州）

ハワイ出雲大社は、島根県の出雲大社の分社として、出雲大社ハワイ分院とも言われ、1906年に創祀されました。

2006年（平成18年）には100周年、2016年（平成28年）には創祀110周年記念大祭が執り行われています。

1968年にクワイ街の再開発計画に伴って、社殿を現在の場所に移転修復されております。

TV番組でも取り上げられており、有名人が訪れた時の写真等が掲載されています。

ワイキキ周辺からは離れていますが、TheBusやトロリーバスで行くことができます。

社務所受付時間は午前8時30分から午後4時45分までとなっており、正面ゲートが閉められるため時間外の参拝は出来ませんので、明るい内に訪れた方が良いです。（祈願等は事前の予約が必要となります。）

御朱印帳がとてもかわいらしい物になっていますので、行かれたさいは購入を検討してみてください。

参照：ハワイ出雲大社HP、Wikipedia



JSDA 会報 2020年・初夏号

発行日：2020年7月 通巻第59号

発行者：一般社団法人日本シャッター・ドア協会

〒102-0073 東京都千代田区九段北3丁目2-5 九段北325ビル8階

tel.03-3288-1281 (代) / fax.03-3288-1282

URL:<http://www.jsda.or.jp>